

月報

<451号>

ケルン・ボン日本語
キリスト教会
二〇二一年四月八日発行

「わたしは世の終わりを喜び、いつもあなたがたと共にいる。」

佐々木良子

イースターおめでとうございます。昨年からの新型コロナウイルスの感染拡大のために、毎週会堂に集まって礼拝をお献げすることができずに一年が経ちました。

教会の歩み、そして私たちの生活も様変わりしました。先がみえない毎日ですが、折に触れて主から知恵を頂き、今、できることを示され何とかここ迄歩むことができました。

今年のイースターもスカイプ礼拝でしたが、昨年より豊かな時となりました。オンラインにも慣れて礼拝ではピアノによる特別賛美や、又、祝会の代わりに、各自が作ったイースターエッグを紹介しながら楽しい交わりの時を持ちました。

イースターエッグの作成は、一同が一つのことを共有できる幸いな時となりました。特にこのような「時世」ですの、仲間と共にいるという事を実感し元気を頂きました。

しかし、インターネットを介しての共有の時間は限られた一時です。だからこそ、「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」（ヨハネによる福音書二八章二〇節）と、いつでもどこでも私たちと共にいてくださる、という永遠に変わら



ないイエス様の約束の御言葉がより一層心に響いてきます。

この御言葉は単なる口約束ではなく、イエス様は人類の罪を全て背負い、私たちの身代わりとなってご自身の命を献げられたという事実に基づいている確固たるものです。

この御言葉が語られたのは、イエス様が復活されたから四週間後に、ガリラヤで弟子たちと再会した時でした。この約束は弟子たちだけでなく、今を生きる私たち一人ひとりに語られている御言葉でもあります。

復活のイエス様と出会った弟子たちは、本来イエス様に会わせる顔もないような者たちでした。イエスが逮捕される時に逃げ、裏切り見捨ててしまった、という後ろめたさを持っていました。

しかし、イエス様の方から近づいてくださったと聖書には記されています。このような弱さを抱えた者たちを包んでくださるイエス様の慈しみと憐れみの故に、何度躓いても、失敗しても、立ち上がる事ができるのです。しかし、そのようなイエス様の愛が分ならず疑う者もいたと書かれています。

イエス様のご復活をはじめ、ご降誕の出来事、奇跡物語など、聖書に記されている事柄は理解し難いことが多くあります。私たちが持っている知識や経験から考えるならば疑いも出てくるでしょう。

そのような私たちを重々ご存知で、イエス様は「信じる」ことを求めておられます。信じる事ができないトマスに「わたしを見たから信じたのか。見ないのに信じる人は、幸いである」（ヨハネによる福音書二〇章二九節）と語られました。

私たちは神によって創られた者ですから、神の御手の中で存在していることを忘れてはなりません。「わたし」を基点として、どんなに深い思索をしても、経験を重ねたとしても、どこまでも人間の域の中ですから、堂々巡りで疑いは尽きません。

神が私たち人間よりも先におられ、神がなさっていることが先にあり、その神の御業の中に存在している事に目を向けた時に初めて神と出会うことができ、神を信じる者とさせて頂けるのです。信じる努力ではなく、神に目を向けることが重要です。

左記の詩人は試練の時、神に見捨てられたと思いついていましたが、後に神の御手の中にあることを知ることになりました。不信仰な者にイエス様の方から近づいてくださり「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」と約束してくださいます。神の御業の中に自分が存在していることを信じる者は幸いです。

《足跡・フットプリント》 マーガレット・F・パワーズ作

ある夜、彼は夢を見た。
それは主とともに海岸を歩いている夢だった。
その時彼の人生が走馬灯のように空を横切った。
その場面、場面で、彼は砂浜に二組の足跡があることに気がついた。
ひとつは主のもの、そしてもうひとつは自分のものであった。
そして最後のシーンが現れた時、彼は砂浜の足跡を振り返って見た。
すると彼が歩んできた今までの道の多くの時に、たったひとつの足跡しかないことに気がついた。
そしてそれはまた彼の人生で最も困難で悲しみに打ちひしがれているときのものであることに気づかされた。
彼はこのことでひどく悩み、主に尋ねた。
「主よ、かつて私があなたに従うと決心した時、あなたはどんな時も私とともに歩んでくださると約束されたではありませんか。でも私の人生で最も苦しかった時、ひとつの足跡しかありません。私が最もあなたを必要としていた時、どうしてあなたは私を置き去りにされたのですか？私には理解できません。」
主は答えられた。「私の高価で尊い子よ、私はあなたを愛している。決して見捨てたりはしない。あなたが試練や苦しみの中にあつた時、たった一組しか足跡がなかったのは私があなたを携え歩いていたからです。」

「主と共に」

ケルン・ボン日本語キリスト教会 教会員 尾畑秀治

日本へ帰国して三年間が瞬く間に過ぎて行きました。ケルン・ボン教会の皆さんに送別されてドイツを去ったのが、ついこの間のように思われます。



2017年クリスマス送別会にて

現在は東京都の多摩地区に位置する小平市に住んでいます。東京と言えども、私達の住まいの周りにはまだ畑が点在し、農家の方々が野菜などを育てています。四十年前この地からドイツに出発した私達夫婦にとって再び地元に戻った感覚です。ただ周り一面が畑だったこの地区も郊外の住宅地開発が進み、以前のような田園風景はもう見る事が出来なくなりました。そのようなのかな地区を歩いて二〇分ほど離れた母教会へ毎主日通っています。妻は徒歩で、私は自転車で行き、礼拝に欠かさず出席して主の恵みをいただいています。

妻と私が洗礼を受けた「日本長老教会・東大和刈穂キリスト教会」は、朴深国牧師が牧会をされています。三〇数年前日本での伝道を召命として与えられた朴牧師は、東京で初めて日本語を学び神学校を出られた方で、私達のように長年外国に滞在した者の体験や苦労を良く理解して下さる先生でもあります。教会への転入に当たっては準備会で牧師と二ヶ月間ほど学びの時をもち、再び教会員に帰属することが出来ました。教会には渡独前からの信仰の友も健在でおられ、当時小さかった子供たちが親となり、さらに若い世代へ信仰が引き継がれている様は感謝なことです。一時帰国する折々に礼拝に出席していましたので、教会員の皆さんとは顔見知りでもあり温かく迎えて頂きました。

現在礼拝では「出エジプト記」の通読講解説教が行われており、主のご計画と執り成しを学んでいます。イスラエルの民を導くモーセの前には数々の難題が起ります。解決の糸口が見出せなく忍耐を強いられるような壁をも、神様は私達には必要とご計画されて

いるのでしよう。ただ忍耐が希望へと導かれる信仰のごとくに、「わたしはあなたと共にいる」と言われる主が、困難に直面したとき必ず側にいて下さると信じています。疲れた時にすぐにも向かいたくなるのが教会です。主日礼拝の説教に慰めの御言葉を見出し、主がすべてをご計画され救いの道を備えて下さることを改めて深く知らされる日々です。ケルンボン教会でもそうであったように、信仰の友と交わす言葉に励まされながら、主に新たな力をいただく教会生活を今まさに過ごしています。

礼拝後には毎週風食会が行われ(第四週日はお休み)、信仰の交わりを通して教会生活をさらに良きものとさせて頂いています。しかし新型コロナウイルス感染症が始まった昨年二月からは、教会でもウィルス対策が細かく取られ、会堂礼拝とインターネットによる在宅礼拝を併用して主日礼拝を守るようになりました。会堂での礼拝を中止する教会もある中で、私達夫婦は昨年春の緊急事態宣言下のみ在宅礼拝を守りましたが、それ以降はずっと会堂礼拝に集っています。しかしコロナ禍のいま、感染防止のため教会行事を休止しており、聖餐式をはじめ夕讃美礼拝や風食会などほぼ一年以上中断、主に在る交わりの大切さを改めて感じています。また何よりも感謝な事は、対外指定献金として渡される茶封筒の表側に、他の指定先と並んで「ケルンボン日本語教会」の名前が記載され選ぶようになっています。長年に亘ってこのようにして祈り支えて下さっていることを目にして感謝せずにはおられません。

私が教会で奉仕させていただいているのは聖歌隊の指導と指揮。ケルンボン教会で一緒に讃美演奏したように、ここでは聖歌隊メンバーと練習を繰り返してクリスマスやイースターなどの特別礼拝で讃美の時を持っています。十数名の小さな聖歌隊ですが、主の栄光を讃美する歌声は何処にあっても嬉しく楽しいものです。礼拝後だけの短い練習時間ですが、毎回新たな讃美曲を取り上げていますのでメンバーも増えてきました。また讃美歌「血しおしたる」では一節をドイツ語で歌いハーモニーの美しさや表現の楽しさを感じてもらっています。もちろん真知子もソロパートを歌ってコーラスを助けてくれたり、特別讃美では

喜んで奉仕させていただいています。ただ聖歌隊も現在は練習休止を余儀なくされてしまい、一日も早く会堂に讃美の響が戻ってくることを祈っています。婦人会主催のクリスマス会からもお願いされ、一人でドイツのお話と讃美で奉仕させていただきました。音楽だけではなくドイツでの生活体験が役立っただけがあるものです。

福島県・東日本大震災一〇年復興支援

メモリアルコンサートに出演して

外間久美子

三月一三日にエッセン市経済振興公社主催による「福島県・東日本大震災復興支援一〇年メモリアルコンサート」がエッセン市・フォルクバンク美術館からYouTube放映された。楽譜が見つらなくなった室内楽のコンサートを諦めざるを得なかった私は、もうこれで演奏活動は終わったと思っていたのだが、なんとそのコンサートでソロ演奏をする機会を与えられた。六八歳手前のソロデビュー(笑)であった。

父の恩師であり、山田耕作の弟子であった宮良長包の曲を私は幼い頃から毎日弾き歌いしていた。彼の歌曲を音楽家の方と〇〇「南国の花」を二〇〇五年リリースしたのだが、その際に、やはり沖縄出身の瑞慶覧尚子さんにピアノソロへの編曲を委嘱した。その「山の子守唄」「泊り船」「えんどうの花」を私は愛していた。何年も弾かずにいることもあったが、昨年の秋頃から又練習し直していた。そんな折、Wさんと彼女のレッスン室であうことになった。そこには、小さなピアノがあって、生徒がピアノを探している最中だったので試弾させて頂いた。まず同業者の前で弾くことはないのに、なぜか夢中になって弾いていた。今思えば、そこに、神様のご計画を感じる。

一月下旬にリモートコンサートが決まって、音楽プログラム担当のWさんから打診があったときには驚いた。とても公式の場でのソロ演奏はできないとひたすら拒んだ。しかし、一方でこの作品は現在私しか弾いていない、こんな素晴らしい作品が知られず埋もれてしまっているのかと自問が始まった。それを紹介する役目が私にはある、こんな機会を逃してはいけないと奮い立つ自分と二回の暗譜のトラウマを思い出し怖

さに震える自分との狭間で随分悩み、返事を待ってもらっていた。そんなときに、たまたま続けて聞いた二人のYouTubeバーの話がなんと暗記のコツと、失敗を恐れてはいけないというテーマで、これは神様がやりなさいと言われているのだと感じ承諾した。それから、あなたの助けなしにはできません、助けてくださいと祈りながら練習に励んだ。しかし、その二週間後、階下の大家さんからあらぬ疑いをかけられ、親切な大家さんの豹変にショックが大きく、体調を崩してしまった。初ソロ演奏のプレッシャーと大家さんとの問題に耐えきれなかったのか、昔の持病の回転性めまいが起きてしまい、全く自信がなくなってしまう。考えた末、オンライン礼拝後に、勇気を出して教会の方々に祈ってくださいるようにお願いした。私も祈り求め、少しずつ練習を始めると、不思議と大家さんもおとなしくなって、罵声を浴びせられることもなくなり、練習に集中することができた。暗譜のトラウマはしつこく付きまとっていたが、もう神様の手に委ねるしかないと思えるようになった。



そして、本番当日、私はほんとに穏やかであった。お祈りして、短い瞑想をして控室を出た。暗譜の恐怖も不思議と消えて、落ち着いて演奏することができた。残念ながらノミズではなかったが、私らしい音楽表現ができたのでよし、と思った。多くの方々から涙した、癒されたとメッセージを頂いた。郷土の二人の作曲家のこの素晴らしい作品を紹介できたこと、未だに沢山の問題を抱えている福島の、東日本の被災者の方々のために心から捧げることができたことは最高の喜びだった。苦しい試練を通して、また成長できたかと、神様からの大きなプレゼント頂いたなと実感する。まだ、試練は続きそうだが、神様に信頼して委ねるしかない。きっと平安が与えられると信じている。

平和をかみしめて

小松川教会教会員・「佐々木良子宣教師を支える会」委員

鶴巣香穂利

「キリストはおいでになり、遠く離れているあなたがたにも、また、近くににいる人々にも、平和の福音を告

げ知らされました。」(エフエソ信徒への手紙二章十七節)二〇二〇年は新型コロナウィルス(以下、コロナ)に始まりコロナに終わりました。そのよくな中、ケルン・ボン日本語教会(以下、KB教会)のスカイプ礼拝の恵みに預かりました。多くの教会が YouTube 配信での礼拝を行う中、お互い顔を見ながら話ができるスカイプ礼拝・聖書を学ぶ会は、大きな感謝でした。人数が少ないからこそ実現した恵みです。

KB教会の方とスカイプを通して交わりを重ねる中で、たくさんのことを学びました。一つ、ドイツではプロテスタント信者が多い街とカトリック信者が多い街がある、一つ、中学でキリスト教の授業があり、プロテスタントかカトリックかを選ぶ。さすがキリスト教国！そして一番感激したのは、広島・長崎原爆投下の日が近づくと、ドイツの十以上の都市で Hiroshima Day、Nagasaki Day の催しがあることです。そして、KB教会の教会員の方々が、色々な形で平和を希求する活動に携わっていることです。

冒頭の聖句は二〇二〇年七月二十六日の礼拝で学んだエフエソ信徒へ手紙二章十一節〜二十二節の一節です。この原稿を書いている週の水曜日は三月十日で、私の地元のみだとりフォニーホールで開催された「平和祈念コンサート」に行きました。毎年、東京大空襲(一九四五年三月十日)や東日本大震災(二〇一一年三月十一日)等の犠牲者を思い、平和を祈念して新日本フィルハーモニー交響楽団による演奏が行われます。

昨年は、この平和祈念コンサートさえもコロナの影響で中止になりました。今年は定員を半分に開催されました。昨年演奏される予定だったベートーヴェンの劇音楽『エグモント』が再び選ばれました。フランス軍によるウィーン占領という非常事態のなか、閉鎖を余儀なくされていた宮廷劇場がなんとか活路を見出すべく、ベートーヴェンに劇音楽の作曲を依頼して上演されたゲーテの悲劇『エグモント』です。

当たり前だと思っていた日常生活があつという間に変わってしまった、改めて平和の大切さをかみしめました。また、ドイツの地から日本の平和を祈ってくださいる方々がいることを神様に感謝しました。スカイプも

いいですが、やはりドイツに行つて、ボンハッファー教会の礼拝堂でKB教会の方々と一緒に礼拝を捧げることが出来る日が一日でも早くおとされることを切に祈ります。

ケルン・ボン日本語キリスト教会を覚えて

日本基督教団 喬木教会牧師 伊奈聡

佐々木良子先生とは先生が神学校に入学した時から付き合いです。先生の方が年上なのですが、とても気さくに付き合っており、家族の一員のようにさせていたに感謝しています。その先生がドイツに行かれると聞いた時、「また無謀なことを…」と思いつつも、主の召しには従順に應える先生らしいなと思われしました。先生を通して、ドイツに日本人の教会があることを知りました。

ドイツと言えば、宗教改革発祥の地ですから、さぞ信仰で恵まれた地、という感覚でしたが、日本人も少ないでしょうし、意外と宣教の必要な地、ということをお教えされました。私たちの教会も過疎地の村にありますが、何か親近感を覚えるところです。特に毎年三月には、先生は私たちの教会においでくださり、礼拝説教と共に、風食を囲みながらドイツでのお働きをお聞きしながら、ドイツがとても身近に感じられ、教会の方々も耳を傾け祈りの内に応援しています。

しかし、今年はコロナ禍の為に日本への一時帰国が出来ないということでしたので、私たちの教会では三月一カ月間、特にKB教会を覚えて教会全体で祈りをお献げしました。私たちの教会は会堂移転という大きな祈りの課題があつて、千時間の祈りを積み上げるところです。と同時にドイツにあるKB教会、そして佐々木先生のお働きのためにもお献げする恵みに与り感謝しています。主は、「全世界に行つて、造られた全ての者に福音を宣べ伝えなさい」(マルコ)による福音書十六章十五節と命じられました。与えられた環境、賜物、機会を用いて、共に伝道に励んで参りましょう！

其々のアイデアが生かされたイースターエッグ



◇ 報 告 ◇

◇ Koslowsky 先生が一月二日に召天されました。葬儀は一月九日 ChristusKirche Brühlにて執り行われ、藤井隼人兄・弘子姉が参列いたしました。先生は一九九〇年に『ドイツ・ラインラント福音教会・州教会本部エキコメニスム担当牧師』として当教会と関わられて以来、ほぼ三〇年間公私に亘り様々な局面でお支え下さいました。これまでの働きに心から感謝すると共にご遺族の上に主のお慰めをお祈りいたします。

◇ 一月三十一日、礼拝前にスカイプにて定期総会を行いました。

◇ イースター礼拝は昨年同様スカイプにて行いました。ピアノ演奏による特別賛美と、礼拝後は恒例の玉子探しゲームの代わりに各自が作成したイースターエッグを紹介して楽しみました

◇ お知らせ ◇

佐々木牧師は毎年3月に、ドイツ宣教報告のため日本に一時帰国していましたが、今年はコロナ禍の為に帰国できなかったので、YouTubeにての報告となりました。以下のリンクから閲覧することができます。教会の方々も参加されています。

<https://youtu.be/BqjX4URe888>



「福島春・東日本大震災復興支援10年メモリアルコンサート」のYouTubeは、以下のリンクより現在も閲覧することができます。

<https://youtu.be/waRbmYqo1a0>

◇ 予 告 ◇

◇ペンテコステ日独語礼拝

日時 五月三日(日) 一四時〜

◇野外礼拝

日時 六月三日(日) 一一時〜

ケルン・広島長崎公園

◇礼拝・諸集会について

基本的に全て、スカイプにて行ってまいります。

礼拝 毎週日曜日 十四時

聖書の学び会・祈禱会 毎週水曜日 一〇時
ママの子育ての学び会・読書会 オンライン

変動的ですので、牧師までお問い合わせください。尚、子どもの礼拝は暫く休会となります。

但し、集会ができるようになった場合は下記の予定です。ホームページでご確認ください。

礼拝

毎日曜日 一四時 オンライン
第二日曜日 一四時 会堂

(会堂にてオンライン同時配信)

聖書を学び会

第一・三水曜日 一〇時 牧師宅
第二・四水曜日 一〇時 オンライン

子育ての学び会
読書会

第二水曜日 牧師宅
第四水曜日 牧師宅

編集後記

生まれて初めてイースターエッグを作りました。これまでは教会の方任せでしたが、恒例の玉子探しゲームができないので、それに代わるものとして其々が作成したものをオンラインを通して紹介することになったのです。やり始めたらすっかりハマってしまい、玉子料理を毎日食べる羽目になりました。今後のコレステロールが心配です。文房具店も閉まっているので、装飾に必要なものが手元にありませんでしたが、アイデアが与えられ、益々気合が入りました。コロナがなかったら私は一生作ることはなかったことでしょう。(佐々木良子)

発行:ケルン・ボン日本語キリスト教会役員会
Japanische Evangelische Gemeinde
Köln-Bonn e.V.

<主日公同礼拝>

会場: Dietrich-Bonhoeffer-Kirche
住所: An der Decksteiner Mühle 1
50935 Köln (Lindenthal), Germany
電話: 0221-4300319 (礼拝前後のみ)
時刻: 毎週日曜日 14:00-15:00

<牧師> 佐々木良子 (Pfr' Ryoko SASAKI)

牧師館: Breslauer Str. 26, 50858 Köln
固定電話: 02234-9298792
携帯電話: 0151-2910 6278
Email: r310130s@yahoo.co.jp

<ホームページ>

<http://koelnbonn.jp>

<振込口座>

IBAN: DE97 3601 0043 0587 6034 38
BIC: PBNKDEFF